

(研究結果報告書)

平成 28 年 12 月 20 日

<研究課題> 心不全の在宅医療を実践できる薬剤師の育成

代表研究者 千葉大学大学院薬学研究院 教授 高野 博之

共同研究者 千葉大学大学院薬学研究院 教授 関根 祐子

【まとめ】

心不全患者は息切れや呼吸困難などの症状悪化による入退院を繰り返すことが多い。心不全悪化を早期に発見し再入院を防ぐためには、心不全の在宅医療に焦点を当てた独創的な取り組みが必要となる。本研究では心不全の最新知識を学ぶ座学だけでなく、フィジカルアセスメントやコミュニケーション能力の向上を目指した実習も行った。さらに、心不全の在宅医療の現状と問題点を話し合うためのワークショップや症例検討会を開催した。

1. 研究の目的

心不全はあらゆる心血管疾患の終末像である。患者は息切れや呼吸困難などの症状により日常生活での行動が制限されるだけでなく、心不全悪化による入退院を繰り返すことが多い。心不全悪化を早期に発見し再入院を防ぐためには、薬剤師も薬物治療の効果や副作用を発見できるフィジカルアセスメント能力が必要であるが、専門的なトレーニングを受けた薬剤師は少ない。そこで心不全の在宅医療に焦点を当てた独創的な取り組みが必要である。本研究の目的は、心不全の最新知識を学びフィジカルアセスメントやコミュニケーション能力の向上を目指した実習を行い、身につけたスキルを在宅医療の現場で実践することである。心不全の在宅医療の現状と問題点を話し合い、症例検討や意見交換を行うためにワークショップも開催する。高齢化により増加している心不全患者の在宅医療を実践できる薬剤師が増えるため社会的意義は高いと考えられる。

2. 研究方法と経過

2-1. 心不全の最新知識に関する講義（座学による習得）

千葉大学薬学部の講義室で心不全の病態・検査・治療法について授業を行う。できるだけ最新の情報を提供できるよう内容を工夫し資料等を作成する。心不全の際の心臓病理や心筋細胞内の遺伝子発現、タンパク質発現の変化を理解してもらうために、心不全モデルマウスの心臓やラットの培養心筋細胞の基礎研究データを使って解説する。代表研究者が海外の最新データを学ぶために国際学会に参加する。

2-2. フィジカルアセスメントの実習

千葉大学附属病院にある診察シミュレーターを使って胸部の診察方法を習得する。薬剤師のフィジカルアセスメントのゴールは病気の診断ができる能力を身につけることではなく、治療の経過において心不全の悪化がないか、または薬の副作用が出現していないか、などを正確に判断できることである。つまり、これまで認められなかった異常な心音や呼吸音などが聴取されるか、全身の浮腫や頸静脈の怒張などの心不全の徴候がみられるか、などを確認でき医師に適切に伝えられる能力を身につけてもらうことが目的である。

2-3. 症例検討会

症例検討会では、心不全の入院患者や在宅患者の治療経過を提示して心不全診療のポイントを学んでもらう。実際の医療現場での治療方法や問題点についての理解を深める。

2-4. ワークショップ（スモールグループディスカッション）

在宅医療で心不全のチーム医療を実践している医師、看護師、薬剤師に参加してもらい、スモールグループディスカッションにより在宅医療の現状と問題点について議論する。在宅医療を成功させるためのアドバイスについても話してもらう。

3. 研究の成果

全て当初の研究計画通りに実施できた。心不全の座学を2回、フィジカルアセスメントを1回、症例検討会を2回、ワークショップを1回、開催した。受講者からのアンケート調査の結果、十分満足のいく内容であることが確認できた。

4. 今後の課題

心不全の在宅医療に絞った知識やスキルアップを目指した研究は、国内ではほとんど行われておらず独創性に富む育成プログラムであったと思われる。今後は同様の教育プログラムを千葉大学薬学部の学生にも行い、在宅医療に関心をもつ学生が早期から在宅医療の現場で実習できるような教育体制を構築する。

5. 研究成果の公表方法

2017年3月に仙台で開催される日本薬学会第137年会のシンポジウムで本研究成果を発表する予定（代表研究者が発表。演題は採択済み）。

以上